

## 平成28年度 第1回 安曇野市総合教育会議 会議録

日 時 平成28年8月8日(月) 午前10時00分から午前11時30分

場 所 安曇野市役所3階 会議室301

### ○出席者

市長 宮澤 宗弘

教育委員長 唐木 博夫

教育委員長職務代理者 宮澤 豊弘

教育委員 須澤 真広

教育委員 横内 理恵子

教育長 橋渡 勝也

### ○補助のため出席する者

教育部長 山田 宰久

学校教育課長 古幡 彰

生涯学習課長 蓮井 昭夫

文化課長 那須野 雅好

図書館交流課長 高嶋 俊明

学校教育課指導主事 一色 保典

学校教育課教育指導員 池田 安宏

### ○事務局出席者

補佐兼教育総務係長 平林 洋一

学校教育課教育総務係 岩原 遼子

◎開 会

**教育部長** それでは、定刻となりましたので、ただいまから平成28年度第1回総合教育会議を開催いたします。

私、教育部長山田が本日の進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。  
なお、本日の総合教育会議は公開としておりますので、よろしくお願いいたします。

---

◎市長挨拶

**教育部長** それでは、最初に宮澤市長からご挨拶をお願いいたします。

**市長** おはようございます。

本日は、平成28年度の第1回安曇野市総合教育会議を開催いたしましたところ教育委員の先生方には何かとお忙しい中をご出席いただきまして、まことにありがとうございます。

暦の上では既に立秋ということですが、まだまだ暑さが続きます。健康には十分ご留意いただき、ご活躍をいただきたいと思います。

平素から市の教育行政の推進につきましてご尽力賜っておりますこと、改めて感謝を申し上げます。夏本番ということですが、先ほど申し上げましたように秋の気配がところどころに感じられる季節になってまいりました。こんな中で市内の小中学校の夏休み、既に10日が経過をいたしております。無事に夏休みを終えて元気な子どもたちの姿、そして声が聞こえるような一回りも二回りも成長した子どもたちの姿を想像をさせていただいているんですが、いよいよ2学期に入るということでございます。

ご案内をしていただきましたけれども、現在少子高齢化、人口減少時代に突入をしております私ども安曇野市としても何とかこの人口減少に歯止めをかけたいという思いでそれぞれの施策に取り組んでいるところでございます。推計でございますけれども、2040年、このまま推移をすれば7万8,000人まで減少をしてしまうという状況であります。現在9万8,200人あまりということですが、月々300人近い人口が減少しておりますのでこのまま推移をすればおそらく本年度中には、9万8,000人を割り込んでしまうんじゃないかというような状況でございます。

こういった状況を踏まえながら将来にわたり持続可能な自治体、そして活力ある自治体、田園産業都市安曇野を目指してまいりたいというように思っております。何とか子どもたちからもふるさと安曇野に愛着を持っていただき、将来ここの地域をリードしていただけるよ

うな人材の育成、そして健全な心身を持った、また生き生きと活動する魅力ある地域づくりに子どもは励んでいかなければというように思っております。

総合教育会議、これは行政と教育委員会が十分な意思疎通を図りながら教育の課題、あるいは安曇野教育のあるべき姿、こういったものを共有しながら一層民意を反映した教育行政の推進を図ることを目的としたものでございます。本日の会議は、是非前々から私もお願いを申し上げております「健康でたくましい安曇野の子どもを育てるために」。そして何か目標を持ってその子どもたちの能力、あるいは個性を十分に発揮できるような子どもたちの育成に努めていただきたいなというふうに思っておりますし何よりも教育、指導者によって大きく子どもの性格といいますか、行くべき方向が定められていく、教師に大きな影響がございます。従って、体力もこういう自然の中にいながら女子は長野県平均を下回っているというようなお話も伺っております。体力が第一でございますので何とか少なくとも長野県の平均を上回るような、そして自然豊かなこの地で育っている子どもが全国でも体力だけはあるよ、と。粘りのきく、忍耐力のある子どもの育成に努めていただきたいと思っておりますし今までも何回か申し上げてまいりましたが、とにかくいいこと、どの分野でもいいのでまずできないはともかく日本一を目指すような教育をしていただきたいなというふうに思っております。

また、今国のほうでは18歳から選挙権を与えるというようなことで法律が改正になりこの参議院選から18歳から選挙権が行使をされたわけですが、40%台ということで投票率も低迷をいたしております。何とかこの安曇野教育の中で、教員は政治的中立が求められているんですが、税金の使われ方であるとか、あるいは自分たちの声であるとか私は日常生活から政治を切り離して考えるということは大変困難だというふうに思っております。ただ、一党一派に偏しないような特定の政党を支持するようなことでなくして何よりも命を大切にする、そして一人一人仲間を大切にし思いやりのある心、そして助け合っていく、こんな教育をしていただきたいなと、そんな中で常々お願いをしてございます。

安曇野市の目指すべき方向は、田園産業都市構想でございます。この農業を守り、あるいは産業を振興しこの地域で働く職場を確保していきたいという思いがございます。そんな中で、職能教育がいろいろ叫ばれておりますし各学校で取り組んでいただいておりますが、子どもたちに命の大切さを学んでもらうための農業といいますか、ものづくり、そして農産物は手を加えれば加えただけ成長をしていきますし、やはり手を加えたことに対してそれだけ成果が上がっていくということでございますので農業等を通じて自ら体験をし汗を流す、そ

の中から仲間を大切に、命を大切に、そんな教育にもしっかり取り組んでいただければというように思います。

いずれにいたしましても、この安曇野市としての教育が長野県の教育、日本の教育のモデルとなるような目標を持って取り組んでいただければというふうに思っておりますし、今後の今日の話の内容等を政策に生かしていかなければいけないということでございますので、お願いを申し上げたいと思います。

また、少し長くなって失礼でございますが、この地域、糸魚川静岡構造線の30年以内の地震発生確率が高くなってまいりました。防災対策等はしっかり市でも取り組んでおりますけれども、万が一の場合の避難訓練であるとか、あるいは備蓄、食料、あるいは水等の貯えも非常に大切になってまいります。いざというときに備えた体制づくりも急務だというように考えておりますので、多角的な方面から現場の意見等をお聞かせいただいて今後の安曇野教育に生かしてまいりたいというようなことを考えておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げ少し長くなりましたが、ご挨拶とさせていただきます。

**教育部長** ありがとうございます。

---

#### ◎教育委員長挨拶

**教育部長** では、続きまして、教育委員会を代表いたしまして唐木教育委員長からご挨拶をお願いいたします。

**委員長** それでは、教育委員会を代表いたしましてご挨拶を申し上げます。

本日、安曇野市総合教育会議を開会していただけますこと、教育委員会といたしましても大変にありがたく思うものであります。会議を通して一層の行政と教育委員会との意思疎通が図られ安曇野市の教育、文化、スポーツなどの振興に向け市政施行11年という新たなステージの中でより質の高い教育や市民サービスなどが実現することを願っております。

本日の会議の中で、健康でたくましい安曇野の子どもたちの育成を中心にした話し合いが持たれていきます。教育や文化の伝承ということで最近ちょっと感じたことを少しお話しさせていただきますというふうに思います。

今、礪山美術館で「高村光太郎—彫刻と詩—展」を開催しております。館内巡視のボランティアをさせていただきます、じっくりと作品と参観者に向き合う機会をいただいております。今回の展覧会でありますけれども、非常に中身の濃いすぐれた展覧会になっており開

催以前から少し楽しみにしておりました。若い方々を含め、多くの参観者があるものと思っておりました。しかし、実際には参観者数は期待していたほどは伸びていないんだということに関係の方々からもお聞きいたしました。私も見ておまして、参観される方はやっぱり熟年の方々が多くてもっと若い人が来るのかなと思っていたんですが、若い人は少ないわけがあります。私たちの年代ですと日本の彫刻といえば礫山、高村光太郎、高村光太郎といえば智恵子と智恵子抄ということですぐに連想されてきます。このことは、多分社会からとか学校教育や教師からとか先輩や同年代の仲間などから自然な形で一つの文化として伝わってきたように思うわけなんです。しかし、現在そういう伝わり方というものが途絶えてしまっているんじゃないかなというふうに感じました。

このような途絶えということを考えてみますと、他のことでも例えば安曇野の文化や伝統、山に登ることの魅力や体を動かすこと、スポーツをすることの爽快さなど今までは自然な形で伝えられてきた社会や個人または親から伝えられてきたものが今はそうではなくなっているんじゃないかなということを感じるわけなんです。そういたしますと、伝える場や伝える機会というのはますます意図的につくっていかなくてはいけない。そうしないと、長い間大切にしてきたものとか不易であるものが埋もれたり、途絶えてしまったりするんじゃないかなという気持ちを強く持ちました。

本日の会議において、子どもの育ちや子どもの育ちを支える環境などに関する課題が出てくるわけですが子ども、子どもたちのよりよい育ちに向けお互いに理解を深めたいな、と。また、伝えるべきものは何なのかなということもまた考えていけたらなというふうに思います。

本日、宮澤市長におかれましてはこの会議を開催していただき本当にありがとうございます。今後とも格別のご理解とご協力、連携をお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

以上、私からのご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

**教育部長** ありがとうございました。

---

◎議事 (1) 健康でたくましい安曇野の子どもを育てるために

**教育部長** それでは、4の議事に入らせていただきます。

議事につきましては、市長がこの会議の主催者となりますので議長をよろしくお願いた

します。

**市長** それでは、しばらくの間議長を務めさせていただきますので、ご協力のほどお願いを申し上げます。

まず、健康でたくましい安曇野の子どもを育てるためにについて、事務局から説明をお願いします。

**教育部長** 「健康でたくましい安曇野の子どもを育てるために」資料により説明。

**市長** 今、事務局から説明がございました。それぞれ委員の皆様方から、ご意見等をお伺いいたしたいと思います。

はい、どうぞ。

**教育長** まず、学校保健統計からみる児童生徒の健康状態というところで、本市の12歳児では虫歯のない生徒の割合が国の平均を10%も上回って70.3%が虫歯がないということで、先ほど事務局の説明からフッ化物洗口の効果があらわれているんじゃないかという、こういう話でございました。私が就任した平成26年11月時点では、数校がまだ実施していなかったわけですが、この時点で既に早くから取り組んでいる学校との開きがあるということで未実施の学校を回りまして是非新年度から実施しようじゃないかと、こういう話でご理解を得られて今日に至っております。市で多額の予算を長年にわたって、つけてきていただいたその継続の成果が出ているということは大変うれしいことだろうと思いますし、また保健医療部との連携であるとか歯科医師会のご理解、バックアップ、これがうんと大きいことだなどと思います。フッ化物洗口は、それだけではなくてやはり歯科医師がそれぞれの学校に出向いて出前講座をやる、ふだんの磨き方指導であるとかそういった大切さについても取り組んでいる学校が増えてきているものですから、そのことの相乗効果もあるんじゃないかなと思っています。

また、食への関心ということで「お弁当の日」というのを是非学校でも取り組もうじゃないかという話の中で、本年度は3校の学校で具体的にこの後半からスタートさせようという、そういう動きもございまして歯の健康、食のことについての意識がだんだんに市全体に広まっていることは大変いい傾向だなど、そんなふうに思っております。

以上です。

**市長** ただいま、橋渡教育長のほうから話がございました。他の委員の皆様方、これに関連して何かございましたらお願いをいたします。

**須澤委員** 今、教育長さんのほうからお話ありましたフッ化物洗口、これが教育長ご就任で

100%の学校が実施というふうになったこと、非常に喜ばしく思います。以前の傾向は、なぜできなかったかと申しますと担当の保健の先生といいますか、養護の先生に反対があったんですね。それと、学校の水道場所が少ないといったようなことを理由づけにしてやらなかったといったことがあったわけですのでその辺がしっかり徹底された結果だな、と。それで、その結果がう歯数が低くなって非常にいいと、これは是非続けていただきたいというふうにこれは思います。

以上でございます。

**市長** 今までいろいろな経過があったと思います。須澤委員のほうから話があったように一部の学校では、このフッ化物に対しての危険性があるんじゃないかというような話がございましたり、それから設備面が整っていないというような話がございましたが、歯科医師会の強い要請等があり過去の実績等からして橋渡教育長になってから全校でやっていただくようになったということであります。

ただ、保護者の方で反対をされる皆さんが何人かいてこういう皆さんは学校のほうへ何件か通知をしてその子どもさんたちは適用されていないというようにお聞きをいたしております。いずれにしても、市でも歯科口腔保健条例の制定をして全市民の歯を守る運動、歯が悪いことによって内臓の疾病等も出てくるということでもありますので、まず噛むということからしっかり健康を守るということで取り組みをさせていただいているところであります。

それから、弁当の日の話が出ました。これは今のところ3校だけだという話ですが、年に何回ぐらい弁当の日というのがあるんですか。

**教育長** 今、季節が暑い時期なものですからもう少し涼しくなった後半から始めようというところなものですから。

**市長** これから具体的に。

**教育長** ええ、そういうことなんです。ですから、回数もこれから具体的に変わってくると思います。

**市長** それで、他の学校で取り組みができないのは3校だけというのは何か理由があるわけですかね。保護者の理解が不足をしているとか。

**教育長** これについては、市でも講演会を開いていただいて何人かの校長先生方も出席されてその講演を聞いた方々は非常に感動を受けて是非やってみなという気持ちになるんですけども、やはり同じような気持ちにその学校の先生方がみんな同一歩調で気持ちを高めていただかなきゃいけませんし、何よりも弁当をつくるのは家庭ですので家庭の協力がなけれ

ばいけません。その家庭のご理解をいただくのに多少今時間がかかっておりますけれども、よさが理解されれば広まっていくのではないかなと、そんなふうに考えております。

**市長** これは、おかずまでみんな食べられるようにして持ってくるということですか。

**教育長** そうです。

**市長** 何かこの件については、委員の皆さんありますか。

今、私は常々思っているんだけど、学校給食でみんな配送センターから便利な形になって、それから親御さんたちも勤務体制も非常に違ってくるということで先ほどの資料の中でも朝食もとらない子どもさんがいるという現状があります。本来だったら、理想的には私どもの子どものころはみんな家で弁当をつくってきたんだけど、ただお金がある子どもと私どものような貧乏の子どもではおかずに非常に開きがあったということがあります。当時は、夏場は梅干しで殺菌作用というような時代があったんですが、今は全て給食センターで配送していただけるという、本来だったら自分の子どもを親がしっかり責任を持って育てるということで弁当は持たせてよこしておかずを同じようなものを配送するというようなことになればいいなという思いがあります。なかなかそうはいても現実困難だということでありまして、弁当もおそらく弁当の日をつくってもコンビニで買っていけというような家庭も出てくるんじゃないかなということが想像できるわけですが、非常に親としての責任をもう少し感じてもらえればありがたいなという思いはあります。

他に何かございますか。

はい、ではお願いします。

**委員長** 今のお弁当の日なんですけれども、弁当を持ってくる日をつくるというのはある意味では教育の中の手段だというふうに思うんです。そこで、何をそういう日をつくることによって狙っていくのかということになればやっぱり食育の中で自分の食に関して子どもたち自身が関心を持って、そしてそういう同じようなことをやっているところもありますけれども、自分でその日は弁当をつくるんだというぐらいのつもりで指導をしていく必要があるかな、と。教育の一環として給食も教育の一環であるわけなんですけれども、給食の一環の中に弁当の日を位置づけていかないとただ弁当を持って来いという形だけに流れていきますと、今市長さんがご心配なされたコンビニで弁当を買ってきてそれを持ってきてこれが自分の弁当だという話になってしまったりしてしまうと思うんですね。ですから、今年3校で実践してもらおうわけなんですけど、いろいろな課題が出てくると思いますので是非学校の教育活動の一環として取り組んでいただくように、また現場のほうとの連携を図ってもらったり、またフ



フォローしていかなくちゃいけないのかなと、そんなことを思いました。

**市長** ありがとうございます。

何か宮澤委員さん、それに関して感想というか、子どもたちの食育というかありますか。

**宮澤委員** 今、市長のほうから給食についての話がありましてその中で給食はおかずくらいにしたらというふうなお話がありました。たしか、自分たちの時代はそういうことで親たちが一生懸命つくっていただいたことがあります。今の自分の子どもたちより下の世代は朝食もろくに食べないで生活をしている、こんなところが現状かと思います。従いまして、やはり3食というものはこうだよという基本を原点に戻ってお互いに家族ぐるみでお話をしたり学び合う、そんなことも大切なのかなと思います。

以上です。

**市長** 横内委員さん、何かございますか。

**横内委員** お弁当の日にお弁当を子どもが自分でつくることによって、家族で食べ物に関する話題があつたり、旬の食材を親から教わつたりとかそういったことはすごく大事ななと思ひ自分もやりたいなと思います。実際、毎日の生活の中で私も子ども2人のお弁当をつくっていますけれども、今は暑いので作りおきとかできませんが、冬などは全ての仕事が終わって家事が終わった後に明日のお弁当のおかずをつくりおきするとかお母さん方はすごく苦労をされていて深夜までおかずをつくって寝るとかよく本当にあることなので、負担ということを見ると保護者は相当お弁当の日がたくさんになったら負担だろうな、と。給食ありがたいのは、栄養面でもありがたいしそういったお弁当をつくらなくてもいいという、給食があるからお弁当を持っていかななくていいから幼稚園はそこを選んだという人もいるくらいなので生活のことと食が大事に思うということのバランスを親のほうも考えて数日なら頑張れるかなと思って聞きました。

でも、子どもたちが食べ物に関心を持ったり、安曇野の食材にすごく関心を持ったり、給食センターなどのおたよりでもいっぱい子どもたちが親に教えてくれたりすることも多かったのでおにぎりからでもいいと思うんですね。おにぎりを自分で握るところからでも、食に対する関心が広まっていったらなと思います。

**市長** 昔と違って生活様式が大きく変化をしてきているし、勤務形態も違ってきているから夜間勤める親御さんも出てくる、それで子どもとの対話も少なくなる。親子の触れ合いとか家族の触れ合いというのがどんどん薄くなってきている中で、農家でさえも2世帯住宅、3世帯住宅がなくなってきている時代なものですから非常に社会変化の中で対応し切れない難し

いものがあると思いますが、やはり自分の子どもは一義的には親が責任を持つということをやってもらいたいなという思いはあります。

一方、この食生活の中でアレルギー体質の子どもさんが非常に多くて幼児教育から義務教育までソバアレルギーだとか牛乳アレルギー、卵アレルギー、それぞれそれに対応する食材の提供と現場では万が一何かあればということで事故に対する神経を非常に使っておいでだということは私としても認識をいたしております。従って、できればこのアレルギー食、本当は家庭でつくっていただいて食材費等は補助をして自分の子どもさんの体質を一番よくわかっている親御さんたちが対応してくださればいいんじゃないかなという思いはありますが、なかなかこれも受け入れてもらうには困難性が大分ありますね。子どもが卒業してしまえば、もう我が子が卒業して用がないという意識になってしまうと思うし自分の子どもがいるうちはしっかり行政が面倒見ると、こういうことになるのでその辺の認識というか意識が大きく違ってしまったたりですね。行政とすれば、つくってきてもらえばその食材をどっちかという支援をして責任は親が持つてもらうということをしないと、万が一なんかあった場合はもう教育委員会なり行政の責任だということになってしまう。非常にこの辺現場が神経を使っていることも事実ですね。

こういうことはなかなか簡単にはいかない。現実もきちっと対応しているから福祉でも教育でも1回いい制度をつくれれば、それを後退させるというのは非常に抵抗あるからなかなかその辺が難しいところだと思います。

よく食育ということで、教育の現場では子どもたちと一緒に昼食をとってもらって基本的には材料費だけを子どもも先生方も負担してもらうということですが、その食育の中でそうすると子どもたちと一緒にご飯を食べてどういうことを伝えているのか、どういうことを学ばせているのか、その辺がよく見えてこないんだけど、教育委員会としてはその辺どういうふうに捉えていますか。食育ということでやっているんだよね。それで、お互いに材料費だけで個人負担なしということですね。長野県中どこもそうだったみたいだけれども、ちょっと個人的には抵抗があるなという思いはあります。

**委員長** 一つよろしいですか。

**市長** はい。

**委員長** 今の食育とアレルギーのことにもちょっとつながっていくと思うんですけども、やっぱりかつてそういうアレルギーの対応の子どもたちと接してきた中で、私二つの考えを持ってしまして、一つはアレルギー対応食というのが日々の給食として提供するもののアレルギー

ゲンを除いたそういうための食である、と。

それから、もう一つは、それを通していずれは自分でコントロールしていかなくちゃいけないわけですのでアレルギーの食物に対して、では自分はどのような気をつけ方をしていくのか、そして将来どんなふうに食を自分でコントロールしていくのかというそこまで持っていかないと、中学校を出て給食がなくなったらアレルギー対応食というのはもう自分で考えていかなければほとんど提供されないわけです。やっぱり、そういう食に対する姿勢づくりとか、それから自分の対応ができる対応力づくりというようなことが大事じゃないかなと思ってやってきました。

ですから、食育についてもやっぱり同じで食に対する考え方をしっかり養っていけば例えばひとり暮らしを始めたときにも自分である程度の食のバランスということに気をつけながら外食をするにしてもしていけるんじゃないかなと思います。やっぱり、義務教育の段階で養っていくことというのは基本的な能力、基本的な社会対応していくための力じゃないかなという気がするので、そういうためにはやっぱりアレルギー対応の食の提供ということが単に食だけの提供ではないんだということを思っております。その辺は各現場も同じじゃないかと思うんですけども、どうでしょうかね。

**市長** どういうふうにやったらいいですかね。何かもう給食センターで、あるいは保育現場でしっかりその子の対応したものを与えているということだから適応力というのが果たして子どもたちにできるかどうか難しいところです。それで、必ずしもそれが大人になるまでアレルギーが続くかということ、途中でそういうのが解消されることがあるということですね。それで、この前こども病院の運営協議会のときに何とかそういうふうにならないかという話をさせてもらったときに、原田院長がそれは途中で治る場合があるんだということでした。せっかくこども病院があそこにあるので、そういった相談日を設けてほしいという願いはさせてもらいましたが、教育現場でこども病院で子どもの健康なり食の問題について健康相談日を設けたときにそれを活用してもらおうことができるのかどうか、その辺も調整してもらってこども病院とも連携をしてもらえばありがたいと思います。

他に何かございますか。この事務局からの資料で最初は食育の話、フッ化物洗口の話が出たわけですが、それぞれこの資料説明の中でございましたらお願いしたいと思います。

**須澤委員** よろしいですか。

**市長** はい。

**須澤委員** この最後の、いつまでも言っていて申しわけないんですが、今の食の点につきまし

て3校でお弁当持参の日を2学期以降に計画されているというお話でございます。この7ページの資料2の基本的生活習慣で「朝食を毎日食べていますか」で、この問いに対して市の統計では100人いれば3人からさらに直近で4人くらいが食べていないんですね。ということは、お昼もお弁当ということになったときにそこに課題が出てくる、と。同じ方が出てくるかどうかはわかりませんが、課題は出てくる、と。それは、さらには今市長さんもおっしゃったアレルギー食についても同様に課題が出てくるだろうと思うんですね。ですから、その解決策が今後の給食は全てであるとかアレルギー食は絶対やらなければいけないといったことではなく、解決法があるというようなのがその辺から出てくるかもしれません。なので、これはちょっといい試みのように思いますが、やっていただいた結果を是非検証いただきたいと思います。

**市長** この朝食をとらないという原因に家庭の問題が原因があると思うんだけど、親自身が朝食をとらないなんていうことも現象の中にはあるのか、その辺の分析というのは朝食をとらない家庭の分析というのはされているわけですか。学校教育課になるのかな。

**学校教育課長** なぜ、とらないかということまでは把握はしておりません。あくまでも数値的なものでございます。まあおそらく、やはり市長おっしゃられたとおり家中が朝食をとらないという家庭かなという気がします。というのは私の主観でございますけれども、そういうふうなことは確認する必要があるかなとは思っています。

以上です。

**市長** それで、朝食をとらない子どもと平常とってくる子どもとの体力差であるとか学力差であるとかその辺は追跡調査的なものはしていないから結果的にはわからないということですか。朝食をとってこなければ体力が落ちるとか、あるいは朝食をとってこなければ授業に身が入らないとか何かそういう原因が明らかになってくればやっぱりこの辺の親の対応も変わってくるんじゃないかなと思うんです。ただ、とったかとらないかだけのデータだけだと何%で終わってしまうんだけど、その辺はなかなか難しいところだとは思っていますね。

食育のところに集中してしまっているんですが、総体的に先ほど説明をしてもらった資料全般に対してご意見等を伺いたいと思います。

**委員長** よろしいですか。

**市長** はい、どうぞ。

**委員長** では、スポーツとか体力の問題とか生涯スポーツにかかわって、それから今計画している新総合体育館ということにかかわってなんですけれども、安曇野市の子どもたちの体力

の問題に今課題が幾つかあったりして生涯スポーツの実施状況なんかもまたこれからさらに検討していかなくてはいけないということであるわけなんです。そのときに、学校体育は学校体育として一生懸命やっている、と。それで、社会体育は社会体育としてその振興を図っているということであるわけなんですけれども、それを連続的に幼児期からそろそろ熟年の段階までということと考えたときに今回新しい体育館ができるのを機会にしながら安曇野市の中でスポーツセンター的な、そういう全市民の体力、スポーツの振興を図っていく、計画していけるような、そんなものがあるといいんじゃないかなということのを常々思っているんです。というのは、それぞれのところでやっていることというのはなかなかつながっていかない。例えば幼稚園、保育園でやっていることが小学校のほうへつながる、または小中との連携、中学でやったことが高校とか、それから社会へのつながりというようなですね。それをハード面の充実とともにそのソフト、安曇野市の健康長寿社会に向けたそういう環境づくりの一環としてスポーツセンター機能を持ったような、そんなようなものはどうかなということのを思っているんですけれども、いかがでしょうか。

**市長** その辺について、ご意見ございましたらお願いをします。

これは、安曇野市の一つの政策としては健康長寿のまちづくりを掲げているわけでこれは子どもばかりじゃなくて医療費が年々増高している状況の中でどのように健康を保ちながら長寿社会を建設をしていくかという取り組みをしています。それには、やはり幼児教育のときから体力づくりには意を注いでいかなければならないと思いますが、とりあえず高齢化が進んでいる中では高齢者の皆さんの交流場所づくり等で健康体操の普及をしよう、と。それで、年代に合った体力づくりということに取り組んでいます、各公民館なんかでその事業の普及に努めているところであります。なかなか簡単には広がっていませんが、そんなグループも年々増えているということでもあります。それで、10周年を記念して安曇野市歌もつきました。これに健康体操の振りつけもできたということで、逐次保健体育の関係でこれらを広めていこうという取り組みは進んでいます。

そんな中で、足腰をどう鍛えるかということととにかくウォーキング、歩くことが非常に大切じゃないかというふうなことでやっているんですが、この生涯スポーツと、それから学校との関係の連携というのもどういうふうにとっていったらいいのか。これは、教育委員会の事務局がある面では調整を図っていくべき課題、学校との連携も非常に必要だというふうに思っております。

ただ、今回の登山にしても学校の都合等によって常念岳登山をやめてしまったことがある

んですが、これは全部の子どもを登山にやるということじゃなくて体力に応じた形で私は運営できないかということをお願いしてきました。例えば、全員が常念岳登山やっても体力のない人は途中で脱落してしまう、あるいはその方を連れていくのに相当先生方も責任を負って苦勞をするということだからできたら里山でもいいので光城山から天平の森へ下るようなことだっていいじゃないか、と。里山のウォーキングコースも活用して、そしてこの地域に親しむ、自然に親しむということをもう少しみんなが関心を持てるようなそれぞれのやり方を考えたらどうだというお願いはしました。

いずれにしても、体力づくりは自分から自らの健康を体を動かすということは汗をかくところから始まらないと体力づくりできないので、これは意識的にやっていかざるを得ない課題かなというふうに思っております。

何か意見あったら、どうぞ。

**教育長** それでは、お願いいたします。

生涯学習課でコーディネーショントレーニングというのを取り入れて、それを今保育園で広める活動をしているんですけども、幼児期からの運動習慣というのが非常に大切でそれが一生の運動、その人が運動にどうかかわっていくかということにうんと重要な役割を果たす、と。また、幼児期からの運動習慣によって脳の活性化であるとか、例えばその子どもたちが小学校に上がってきちんと机に向かって落ちついた授業ができるか、そういう集団の中での自分の体のコントロールといいますか、そんなことでも非常に大事だということで注目されております。安曇野市で取り組んでいるこのコーディネーショントレーニング、非常にいい試みなんですけど、ではもう少し保育園から小学校へつなげて広めていきたいというふうになったときになかなか指導者の数が限られているというようなところで今保育園でとどまっているんですけども、そんなところは是非これから重点的にやっていきたいなと思います。もちろん学校は学校教育課、生涯学習課でスポーツという部分、一応枠はあるわけですけども、やはりそのこのところの壁は低くするといいますか、連携を強めるといいますか、そんなことがこれから非常に求められているかなと思います。

また、今般の市歌の体操もこの8月の校長会では是非校長先生方に自ら体を動かして覚えてもらって、学校でこの2学期の秋のスポーツに是非取り入れてもらおうと思って、今計画をしているところでございます。

以上です。

**市長** 他の委員さん方、体力づくりについてご意見がございましたらお願いします。

横内委員。

**横内委員** 子どもは一人一人体力や運動能力、持っている力がそれぞれ違うわけですが、運動やスポーツをする習慣や興味や関心は子ども時代につくられるということがとても大きいと思うので、先ほど教育長がお話しされたコーディネーションの取り組みはすごくいいことだと思いますし、あと保護者がそのことに関心がある、関心がないということが子どもたちの体力に重要な影響を及ぼしてくるのではないのかなと考えます。

**市長** それで、先の事務局の話だと子どもを送迎して車で送り迎えしているという話が出たんだけど、これはある程度もう歩いてもらうという形で例えば2kmなり3kmは必ず歩いて来てもらう。それで、どうしても遠い子どもは手前で降ろすというようなことでは徹底できないですか。これは学校教育のほうだと思うけれども、事務方ではその辺の問題はどういうふうに捉えているか。

**学校教育課長** 豊科南小学校でおたよりにあったとおり学校としてはやはり歩いてきてもらう、中学では自転車通学の子もいますけれども、やはり今現場ではそれを必ず歩いてこいだとか送迎をしてはいけないということをなかなかそこまでは言えないという状況があると思います。特に下校のときには、そのまま塾に連れていく都合だとかさまざまな理由が考えられるかと思えます。ただ、学校現場の認識としてはやはりできるだけ歩いて当然それが体力の向上につながりますので、そういったような指導はしております。

今、一色指導主事が来ておりますのでちょっと学校現場の状況についてご説明いたします。

**学校教育課指導主事** では、私のほうからお願いします。

学校のほうでは、積極的に歩いてきなさいという指導はしています。ただし、これを各家庭に決まりとしておろすことは困難な状況かなというふうに存じます。やはりいろいろな状況の中で、ひとり歩きにならないようにということに気をつけるとやはりお家の方も心配で送迎をなさる家庭もあつたり、それから自転車通学を希望されているんですけども、ぎりぎりの自転車通学でない子たちは結構やっぱり歩くと遠い。実はそれが体力の促進になるんですけども、やはり遠いということからお家の人がじゃ送っていくよということになってしまうという流れがあります。

いろいろな指導を通して、やはり各家庭に登下校だけでも体力につながるんだよということとは、これからもさらに発信していく必要があるかなというふうには認識をしておりますけれども、なかなか生徒に途中まで乗ってきていいよとか、途中までは送ってもらっていいよとかということをおろしていくのは非常に困難だというふうには考えます。

以上です。

**市長** ただ、これは行政としては交通安全対策、歩道の整備だとか信号機の設置だとかというのはある面ではきちんとやらなければいけない危険防止、あるいは防護柵だとかやらなきゃいけないけれども、幾ら体力づくりといっても親があまりにも子どもを大切にすることはわかるけれども、俺はいつも今どっちかという無菌状態だと思っているんだ。たくましい子どもをつくといいながら、一方ではあまり過保護になり過ぎてこれでは本当にたくましい子どもができるのかな、と。雨降れば、かっぱを着て雨風に当たらないように自ら濡れないようにどうするのか。車社会の中で交通安全対策をするには危険なところには飛びださないとか何とか自らが抵抗力をつけて身を守る術を子どものうちからある程度体で感じていかなくてはなかなか体力向上へつながっていかないんじゃないかなという思いはしています。

あまり何しろみんな保護保護で確かに子どもの数は少なくなっているけれども、本当に世の中の荒波に抵抗できるたくましい子どもになるかなという思いで常々言っているんだけれども、保育園にしたって幼稚園にしても学校もそうなのかもしれないけれども、もう高齢者の福祉施設みたいな中で段差はない、柱は面をとってこぶをつくらない、階段は危ないということになればこういう中でたくましい子どもができるのか。転んですりむくのは当たり前、自分で痛さを感じる、こぶができれば痛い、自分で感じて危険を防止する、そういうことを身につけていかなくては本当に安曇野のたくましい子なんかできないんじゃないかなという思いはしているんだけれども、先生、その辺はどう思っていますか。

**学校教育課指導主事** 市長のおっしゃるとおりかなというふうに思います。やっぱり学校現場も、昨今いろいろな学校の中で事故が起きたりするとやっぱり家庭、またそういった指導、事故報告、再発防止ということを第一に考えて子どもの安全ということに対して考える学校現場とすれば先生方が全力を注いでいるのは確かであります。やっぱり、とにかくけがをさせないようにそれが今の学校現場の流れとすると、それを要求されている状況になっているのかなというふうなやはり気がしてなりません。

だから、本音を言うといろいろなやっぱりたくましい、今日のキーワードのたくましさといい点からしても失敗したりけがをしたり、そんな状況の中で子どもたちが覚えていくことも多分にあるというふうには思いますけれども、なかなかそうなる先生方も今非常に弱い立場の中で突き上げを食らうのは本音のところかなということではありますが、先生たち一同はやっぱりたくましく育てほしい、そんな願いの中で教育をさせていただいているところではあると思います。



**市長** いろいろ意見があったらまた出してまいりたいと思います。ただ、意見を出しても親がだめだって強制できないということになればもうみんな親任せ、学校任せになってしまって学校の先生方は事故を起こさないように、とにかく親からクレームがつかないように、責任を背負わされないようにということのほうへ頭がいつてしまっているのではないかなという思いがしますね。だから、これは親の意識をどう変えるかということも非常に大事なことだと思うけれども。本当にたくましい子どもを育てるって何かなということになれば、もうけがしないように、事故を起こさないようにということだから運動会も人間ピラミッドはなるべくやめたほうがいい、棒倒しはなるべくやめたほうがいい、騎馬戦はなるべくやめたほうがいいというふうなことになってしまって何か理想と現実の間へ挟まってしまって身動きがとれないような状況ではないかなという思いがしているんだけど。

私は勉強嫌いで学力は低いほうだったけれども、とにかく遊んで遊びの中から自ら体験したことというのは頭から入れたことは忘れてしまうけれども、体験したことは大人になっても覚えているんだよね。だから、いろいろなことを体験させるということは非常に大事だと思うんだけど、今は危険だ危険だということだけで何か囲み込んでしまって精神力の弱い子どもたちになってしまうのではないかなという思いもします。

それで、そんなこと言っではいけないけれども、市の職員も鬱病になる、あるいは上司に物を言われるとすぐへなへなとなってしまって何というか頑張りがきかない、ひ弱い大人に育っているんじゃないかなという思いがしてならない。時代が違うといえばそれまでもう古いって言われればそれまでだけれども、非常に世の中の状況がちょっと正常じゃないなと感じています。

宮澤委員、どうですか。

**宮澤委員** 今、市長さんに私も同意見であります、ちょっと考えますとあまりにも核家族化になり過ぎてしまったのではないかな、と。やはり、同じ敷地くらいのところに生活していれば年寄りの目も、孫の目も、子どもの目も届くんじゃないかな、こんなふうに思います。やはり今、保護者保護者ということで逃げられてしまうというんですか、そういう具合に進んでいってしまうのですけれども、そこに年代の違った親たちがまたその今の保護者のほうにこうじゃない、こうだと、こんなようなことを位置づけるとまた違うんじゃないかな。朝飯も食べないで学校へ送り出すとか、あるいはいろいろな事情で登校ぎりぎりに送り届けるとかそんなこともやはり親としてみれば遠くで見てやはり歩くものは歩く、やるものはやる、こういう基本的なものはやっぱり家族でそろっていろいろのことをしていけない限りは

いけないんじゃないかなと、こんなふうに思います。時代の相違もありますけれども、そうやって頑張っている家庭も中にはおりますのでそのところをこれからも学校、あるいは行政ではなくて保護者も自ら襟を正してもらいたい、こんなふうに思っております。

以上です。

**市長** それで、車で送迎をするという家庭というのは全校の何%ぐらいそういう家庭があるわけですか。どこかに出ていますか。

(「資料6に」の声あり)

**市長** 何%ぐらいになりますか。これで見ると、堀金は小学校は送り迎えがなくで中学があるということですね。小学校が少しあるか。堀金小学校あるね。田多井のほうから来ると遠いから、中学も多い。でもこれ、少なくとも2kmや3kmはなるべく歩いてもらうということが子どものためになるよ、ということをやっぱり保護者の人には理解をしてもらう努力をしなければいけないんじゃないかなと思うんだけども。

**市長** 唐木委員長からありましたら、どうぞ。

**委員長** 先ほど、冒頭ご挨拶の中で話をさせていただいたこととつながってくるんですけども、やっぱりどうやって伝えていくか、そういうことを保護者なり地域の方々に伝えていくかということをやっぱりやっついていかないといけない時代にはなっていると思うんですよ。ですから、それを例えば今日の総合教育会議でこういう議題が出されたんだというようなことも何らかの形で学校にも、それから地域にも伝えていく、その伝えていく場や手段というものをつくっていかないと、やっぱりこういう傾向だよねとかこういうことになってきていて改善しなきゃいけないねという、そこで止まってしまうのかなという気がするのです是非、今日の話題になったことをもう一度やっぱり1歩でも半歩でも前でへ進むためにはどうしたらいいかというのを教育委員会のサイドのほうもやっぱり考えていかなきゃいけないというようなことを本当に思います。

以上です。

**市長** 須澤委員、どうぞ。

**須澤委員** 同じようなことを私も実は考えていたんですが、この小学校の集計と中学校の集計、これを比べてみますと小学校は登下校、一桁台もありますよね。これを合わせまして、それで中学校になりますともう軒並み二桁台と、こういうことになっている。登校も下校も、もう10%とか15%、こういうふうに何か小学校が高いのは何だか普通かなと思って中学のほうが高いということはこれはやはり安全ということプラス、放課後の学校外に通うべきところ

があるとかですね。何らかの家庭的に送り迎えしなければいけない事情がそこにあるだろうと思うんです。

それで、今も話に出ておりましたが、豊科南小学校だよりが7月27日に調べたということなんですね。朝7時から8時、このたよりによりますとこの全体の統計はこれより前に調べたんですね。ですから、この今の唐木委員長のお話じゃないですが、教育委員会の調べが来て認識した、と。ちよっとうちの学校、もうちよっと詳しく調べてみようじゃないかというのがこの豊科南小学校だよりだろうと私は思ったんですよ。ですので、やはりこういうことを各学校で認識していただいて学校だよりなり学校のホームページなり、それから担任なりがやっぱり担任が個々をつかんでいると思うんですね。だから、個々をつかんでいる中でこのお家は送り迎えする必要がないんじゃないかというところはやはり申し出をいただくとかということが出てくると思うんですよね。この結果、こういうことをやられたのは非常に大きい効果があるだろうというふうに思うんですね。

もう一つ、ご指摘のようにやっぱり地域的な差というのもこれはありますので、それもひとつ教育委員会として事務局として学校長なり学校へご訪問なさる主事先生のお話の中でそこら辺を話題にされていければ徐々に認識されていくんじゃないかと思います。

**市長** 歩いて来ている子どもと送り迎えをしている子どもの体力差みたいなものがある程度出てくれば、また違うかもしれないですね。というのは、子どもによって体力差もそれぞれあると思うのでなかな難しいところだと思いますが、いずれにしても全て学校の責任にされてもこれはおかしな話で家庭の責任というのをしっかり認識をしてもらった上で、学校教育も各家庭が一緒になってやってもらわなくてはもう先生に任せてあるから全て先生の責任だと言われても、学校も困ってしまいますよね。

いずれにしても、スポーツなんかはそれぞれの子どもの能力とか親に遺伝で似てしまうということがあるので全てがスポーツ選手になれなんていうことは無理だと思うし、知的な問題もある面では親に遺伝で似てしまうのでたまにはそれはトンビが鷹を生むというようなこともあるかもしれないけれども、普通はそんなことはあまり考えられないので努力しても努力しないよりはいいと思うんだけど、どこまで成果が上がるかというとなかなかそのそれぞれの子ども持てる能力や個性があるから非常に難しいと思います。

いつもお願いしているのは、それぞれの持てる子どもの能力や個性を伸ばす教育をしてほしいというお願いをしているんですが、この辺の現場の取り組みというのはどんなふうになっているわけですか。先生たちも人数が足りない、忙しいという話はよく聞くんだけど、

よく引き合いに出して今の時代と違うけれども、俺たちの時代は50人学級だった。それが40人学級になり、35人学級になり、また今30人学級だって、こんなような時代になってきているのにそれでも忙しい忙しいと、教員の仕事が増えちゃっていると、こういう話なんだけれども、行き渡った教育ということで少人数少人数にはしてきている。ただ、あまり少人数にし過ぎてしまっかえて子ども同士の付き合いの仕方とか、あるいはいろいろのゲームをやるとか、あるいはスポーツをやるとかにしてもあまり少なければ機能というか目的が達成できないんじゃないかなという思いもします。それで、昔は学校対抗があったんだけど、学校対抗というのは今なくなっています。

この辺の捉え方というのは、一色先生、学校全体ではどのように見ているのか。

**学校教育課指導主事** 目指すところをどこに置くかというところで、人数の差が出てくるのかなという気がします。いずれにしても、人数が昔多かった時代にしても、それから現在少なくしていただいて各校35人以下の学級でやらせていただく中でやっぱり一人一人のよさを見つけてそのよさを伸ばしていこうという発想はどの学校も説明はもうされていることかなというふうに思います。やはり、でも人数が少なくなればなるほど例えばいろいろな取り組みの中で集団の中でのコミュニケーション能力を培うことというのは少なくなっているかと思うんですけども、学力とかそういったことに関してはやっぱり個別対応が必要であつてという、その二つのどちら側に重きを置くかというところにも少しかかわってくるのかなという気がしています。

いずれにしても、どちらも大事な力なのでそれぞれ例えば学習の中でとか、それから総合的な学習の時間というように多岐にわたってコミュニケーション能力を通じていくときの活動とかそういったところも少人数ばかりでなくて、大人数のところでも取り組んでいるという活動も各学校考えているという現状があるかなというふうに認識しております。

すみません、先ほどの通学の中学校の多いところを少し話をさせていただいてもよろしいですか。

**市長** はい、どうぞ。

**学校教育課指導主事** 一つは、朝部活があつて特に中学校は小学校よりも学区が広いのでその関係で送り迎えが増えているところもあるかと思いますが、実は増えている理由はそれだけではなくて部活に入っていない子たちが意外とぎりぎりに学校に来るときに間に合わなくて乗ってくる子も多いのは事実です。ただ、朝部活があるからその数が多いというのは必ずしも言えないことかなというふうに思います。いずれにしても、やっぱり学区が広がっている

関係はここには少し露骨に朝の段階での数字を見ると出ているのかというふうに考えています。ご承知おきいただければと思います。

以上です。

**市長** ただ、小学生とは違って中学生になれば体力もそれだけ体も大きくなるので本当はその親の考え方、あるいは子どもの意識の持ち方というのがそこに反映されてくるんじゃないかなと思うんですよね。だから、何も校門の前まで車で送り迎えしてもらわなくてもやはり途中で歩いてくるとかお互いに子どもたちも一緒に登校するというようなことの中から自然に触れる機会もそのほうが多いと思うんです。それから仲間同士、対話もあると思います。それが途絶えてしまうことが果たしていいのか、学校の教室の中でいいのかどうか。おじいちゃん、おばあちゃんに行き会う機会も歩いて行けばあると思うし地域との触れ合いがそこに出てくると思うけれども、これも強制力がないということだから自主性に任せると言われればそれまでですね。

他に、全般を通じて何かございますか。

**教育長** それでは、最後をお願いいたします。

長野県では、信州型コミュニティスクールというような名称で、平成29年度には全県全ての学校ということで取り組んでいるんですけども、安曇野市はそういう名称はこれまで使ってきませんでしたけれども、ずっと伝統的に各学校が育んできた地域とのつながりというのが非常に強く、またそれが安曇野市の特色となるような取り組みがなされてきていました。来年度から、安曇野市のコミュニティスクールということで名称もしっかりつけながら地域と地域の皆さんとともにある学校づくりをしっかりとしていきたいというふうに考えています。

先ほど、それぞれの子どもたちの個性、能力をしっかり伸ばすという中には、やはり学校は学校だけではなくて、地域のいろいろなベテランの人、それから得意分野を持った人たちと接する中で目が開かれていくという部分もたくさんあると思いますので、そんなことをひとつしっかりと取り組んでいきたいなと思っています。

また、現在教育部の中でも青少年がかかわるさまざまな取り組みをしています。例えば、先日ありました図書館交流課で新進音楽家のオーディションのジュニアの部をやりましたけれども、小学校5年生から中学生までの若い、日ごろ音楽に親しんで取り組んでいる方々が本当に当代一流の審査員の前で自分の力を発揮して見てもらうというふうな、そういうチャンスを与える機会もございましたし、また映画づくりを映画監督の河崎先生がつきっきりで

見てくださってやるなんてこんな機会はそれこそなかなか得られないけれども、そこに手を挙げて参加する、これも小中高のつながりの中で一つの作品をつくり上げていくという、そんな体験もできる、と。また美術館、博物館も今コンパクト展示でさまざまな地域のおもしろい発見ができるような、あるいはすばらしい芸術に触れるような機会をさまざまつくっておりますので、是非そういうところに子どもたちに足を運んでもらって目を開かれるような、そういう体験をさせていきたいなと、それが一人一人のよさをまた新たに生み出していったり育んでいったりすることにつながるんじゃないかな、と。だから、安曇野市として何もやっていないんじゃないかとさまざまな取り組みがあるということをもっと周知してそこに触れさせる努力をしていく、その工夫が求められているかなと、そんなことを今日は感じさせていただきました。

以上です。

**市長** ありがとうございます。

他に委員さん方、総体を通じてのご意見ございますか。

はい、どうぞ。

**須澤委員** 今、話題には出ていないことでちょっと触れさせていただきたいのは中学生の海外研修です。これは、非常に効果があることで是非継続、充実をしていただければこれは冒頭に市長お話の日本にさらに世界に飛躍する人たちを育てる安曇野市ということになるわけでございます。それで、副市長さんがここにいる人はみんな出ていっちゃうと思うがなんていうふうな冗談を言っていました、また戻ってきてほしいと言っていました、また戻ってくるだけのここに産業があるというのが魅力ある安曇野市だと思うんですね。この一翼をやはり教育は担っているというふうに思います。

それから、2点目は奨学金が設立をされる。これもふるさと納税を活用すると、これまた他にはない内容かな、と。ふるさと納税の活用としては、すばらしい活用だと思うんですね。この2点は大ヒットだなと思いますので、是非今後ともお願いをしていければいいなというふうに思っています。

**市長** ありがとうございます。

他の委員さん方は、何か総体を通じてございましたらお願いをします。

よろしいですか。

(「はい」の声あり)

**市長** それぞれ貴重なご意見をいただきましたけれども、なかなかこれだという結論めいたも

のが出ないんですが、今日出された意見がまたこれからの教育行政に反映できるように事務方でしっかりまとめていただいて新年度予算に生かせるものは生かしていただきたいと思います。ただ、市も財政的にはそんなに豊かではないということだけを認識をしていただいて、より最少の経費で最大の効果をどう上げるかということをお互いに知恵を出し合っていたきたいなというふうに思っております。

それで、去年は10周年ということもございまして穂高会館で2分の1成人式を実施をさせていただきましたが、各学校の交流を図ってほしいということで今年も2分の1成人式は実施をさせていただきます。ただ、内容については午前の部と午後の部を分けるというようなお話も伺っています。音楽祭の発表会にも、私もできる限り行かせていただいておりますけれども、大変すばらしい子どもたちの演奏を聞くことができました。こういった発表会でもできれば単独校だけでそれぞれの学校だけでやるんじゃなくて何か交流の場ができればいいなという思いがございまして、スポーツの交流会等、各学校の交流がもっともっと進めばありがたいなというふうに思いますが、それぞれの学校の行事が重なっていてなかなか難しいというか忙しい、調整できないというふうなお話も聞いております。

最初に、唐木教育委員長のほうからも話がございました美術館、博物館等は無料開放をしていますので社会科の授業等に取り入れてもいただいている面もございまして、それぞれ近場にありますから学校も忙しいことは十分承知をしておりますけれども、芸術文化に子どもたちが触れていただけるような機会をとっていただいて、そしてより多くが心豊かなとか、たくましい子どもを育てると同時に心の豊かさも求めるような教育に結びつけていただけたらなというふうに思っております。

それから、海外のホームステイもこれからもグローバル社会を迎えて続けていきたいと思っておりますし奨学金制度は来年の4月から実施をしていくということです。給付型ができればいいんですが、なかなか給付型というわけにはいきませんし無利子での貸し付けということになります。これも持続可能な制度にしていきたいと思っております。

それから、冒頭お願いさせていただきました平和教育、命を大切にする教育、かけがえない命であります。今年も広島平和記念式典に子どもたちを参加させていただきました。これらの事業も引き続き、実施をしていきたいなというふうに思っております。

いろいろな面で、教育分野はすぐに結果が出る分野ではありません。息の長い、百年の計と言われておりますけれども、着実な教育というか、指導者の話もさせていただきました。よき指導者を得て、安曇野教育に是非力をいただきたいなというふうに思っております。や

やはり学校現場、校長先生方の考え方、そして校長会の力が非常に強いわけですが、安曇野市教育委員会としての一定の方向を出したものについては橋渡教育長もこのように言っていたいております。学校教育の現場で校長先生方からも、大いに連携を深めていただいて協力体制をよりひいていただくことによって先ほど話があったコミュニティスクール、これもスムーズに動いていくと思いますので地域との開かれた学校づくりを進めていただけたらなというように思います。

これらは、やはり事務局段階でしっかりまとめてもらって一定の方向づけをしていただいて学校教育だけじゃなくて社会教育、それぞれ全部の教育委員会の職員含めて安曇野市の教育のあり方についてしっかりした方向づけ一緒に教育委員会でやっていただくように努力をしていただきたいと思います。

---

#### ◎議事 (2) その他

**市長** 以上でよろしいですか。

本日の議事については以上でございますが、その他教育委員会、あるいは事務局のほうで何かあったらこの際お願いいたします。

**教育部長** ありがとうございます。特段こちらのほうからはございません。

**市長** それでは、本日の総合教育会議、協議事項につきましては以上でございます。

貴重なそれぞれのご意見をいただきました。これらを次の段階に生かしていかなければいけないというように思っていますので、よろしくお願いを申し上げ本日の会議は終了させていただきます。ありがとうございます。

---

#### ◎閉 会

**教育部長** ありがとうございます。

それでは、本日の総合教育会議での協議事項につきましては以上とさせていただきます。貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。

では、本日は全て終了いたしましたので閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。